

短期大学における子育て支援の取り組み —SHIGATAN 乳幼児ふれあい・保育体験事業を通して—

前川 頼子¹⁾, 浜崎 由紀²⁾, 松井 典子³⁾, 松井 瑞季⁴⁾

1), 2), 3) 滋賀短期大学 幼児教育保育学科, 4) 滋賀短期大学 乳幼児総合研究所

Efforts of the Child Care Support in the Junior College

—Though SHIGATAN infants contact, Childcare Experience—

Yoriko MAEGAWA¹⁾, Yuki HAMASAKI²⁾, Noriko MATSUI³⁾ Mizuki MATSUI⁴⁾

1), 2), 3) Department of Early Childhood Care and Education, Shiga Junior College

4) Department of Infants Research Institute, Shiga Junior College

抄録：本研究は、滋賀短期大学乳幼児総合研究所における子育て支援の取り組みを通して、短期大学学生の学びを明らかにするため、アンケート調査を行った。アンケート結果から、学生は、子育て親子と触れ合うことで、子育ての大変さや子育て支援の必要性について理解する機会となっていた。また、子育ては大変であると感じながらも、やりがいや子育て支援の必要性を感じていた。今後、学生が、現代の子育て事情や子育て支援についてより学んでいくために、机上の学習だけではなく、相互にかかわる取り組みを継続していくことが求められる。また、子育て支援教育プログラムとして検討していく必要がある。

キーワード：子育て，子育て支援，保育体験，子育て支援教育，ライフデザイン

1. はじめに

滋賀短期大学乳幼児総合研究所（以下、「研究所」という）は、乳幼児保育及び教育に関する学術研究を行い、地域における乳幼児保育及び本学の教育の向上に資することを目的としている。

本研究所は、その目的を達成するために、現在は、特に子育て支援事業及び子育て相談に力を入れている。子育て支援事業内容は、地域の在宅育児家庭の子育て支援、幼児教育保育学科の学生の実践教育、乳幼児・子育て支援の研究等である¹⁾。

現在、子育て中の親の多くは、毎日家事と育児で大変な思いで過ごしている。特に現代の親世代は、子育てに関する学習の機会が減少しており、育児不安を抱いていることも多いと言われる。そこで保

E-mail: 1)y-maekawa@sumire.ac.jp 2)y-hamasaki@sumire.ac.jp 3)n-matsui@sumire.ac.jp
4)m-matsui@sumire.ac.jp

護者が心に余裕を持って子育てをするためには、どのような支援が求められるかを考える必要がある。

2017年に改訂された保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育保育要領においても子育て支援について重要視しており、保育者を目指す学生にとって、あるいは将来、家庭を持ち、親となっていく若い世代の学生にとって、現代の子育てや必要とされる子育て支援について学ぶことは重要である。

そこで、2018年度は、地域の方に広く呼びかけ、また本学学生だけではなく、他大学にも広報し、保護者や乳幼児とのふれあい体験・保育体験を通して学生が子育てを身近に感じ、子育て家庭について興味を持つ機会を提供することを目的に「抱っこ・おんぶの講座と乳幼児親子とのふれあい体験」（2018年9月11日、13日）と「子育て支援講座&保育体験」（9月22日、10月12日）の二つの事業を行った²⁾。本事業は、地域で子育て支援の活動に従事されている「子育ての文化研究所」代表の朱まり子氏を外部講師として招いた³⁾。

「抱っこ・おんぶの講座と乳幼児親子とのふれあい体験」では、乳幼児と母親にとって心地よい基本的な抱っこやおんぶについて実践的に学んだ。「子育て支援講座&保育体験」では、子育て中の親が子どもと離れて親プログラムに参加している間、事前に「子育て支援講座」を受けた学生が親と別れて過ごす子どもたちの保育を体験した。

本研究では、既述の取り組みのうち、「子育て支援講座&保育体験」を体験した学生の学びに焦点をあて、学生が子育てや子育て支援について学んだことをアンケート結果から明らかにする。これにより、子育て支援についての今後の課題、子育て支援教育プログラムについて考える手がかりにしたい。

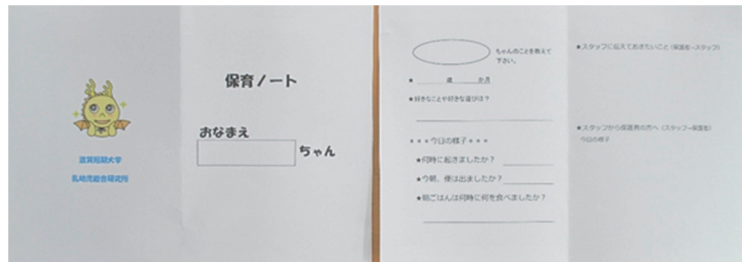


2. 実施事業の概要

2.1 「子育て支援講座&保育体験」

「子育て支援講座&保育体験」では、本講座開始前に、学生たちは講師から「子育て支援講座」の講義を（写真1）学生に対する「子育て支援講座」の受けた。現代の子育て事情や、なぜ、今子育て支援が講話の様子必要なのか等から始まり、親子の愛着関係について、子どもの行動やしぐさから子どもの欲求を読み解く方法等を学んだ。その後、保護者が別室において講座⁴⁾を受講している間、未就園の乳幼児を預かり、学生は保育の体験をした。保育中は、一緒に遊んで過ごしたり、泣いている子どもをあやしたりしながら、子どもたちが楽しく過ごせるよう学生が主体的に様々なあそびを考える姿がみられた。対象児は、保育園等に日常通っていない、普段は家庭で母親と過ごしている0～3歳児であった。基本的に子ども一人に対して一人の学生が担当した。保育の後半では、保育中の子どもの様子を「保育ノート」⁵⁾（写真2）に記載し、保育終了後に親へ渡し、保育中の様子を伝え、子育て親子との交流を

深めた。最後は、親、学生、講師、スタッフ全員で保育中の子どもの様子や学生の関わり等を共有した。



(写真2) 保育ノート

9月22日の体験では、乳幼児総合研究所所長、幼児教育保育学科教員1名、乳幼児総合研究所職員1名が、10月12日の体験では、乳幼児総合研究所所長と職員、合計2名が学生の自主性を重んじながら、保育のサポートにあたった。



(写真3) 学生による保育の様子



(写真4) 乳幼児親子と学生との交流の様子

3. アンケート調査について

本事業における学生の学びについて明らかにするため、事業実施後に、参加者の学生に質問紙によるアンケートを実施した。そのアンケート結果をもとに、学生の学びを分析した。

3.1 調査方法

質問紙によるアンケート調査について

調査対象 「子育て支援講座&保育体験」に参加した短期大学の学生 16名

調査実施日と回答者数 2018年9月22日 10名

2018年10月12日 6名

調査方法 設問に対し、回答は、選択記述と自由記述で実施した。回答に際し、記名を求めた。

短期大学における子育て支援の取り組み

調査項目

調査項目は、表1 アンケート調査のとおりである。

SHIGATAN (滋賀短期大学) 乳幼児ふれあい・保育体験事業	
子育て支援講座&保育体験アンケート	
1. 本日の講座内容 (①子育て支援講座、②保育体験、③乳幼児とその保護者との交流) はどうでしたか。講座全体の感想を書いてください。	
(1) <input type="checkbox"/> 大変よかった (2) <input type="checkbox"/> よかった (3) <input type="checkbox"/> どちらともいえない (4) <input type="checkbox"/> よくなかった	
○感想 (特に興味をもった内容等)	
[]
2. 本講座に参加しようと思ったきっかけを教えてください。	
[]
3. 本講座をどのようにして知りましたか。	
(1) <input type="checkbox"/> ちらし (2) <input type="checkbox"/> 先生からの紹介 (3) <input type="checkbox"/> 友人・知人からの紹介	
(4) <input type="checkbox"/> 滋賀短期大学のホームページ (5) <input type="checkbox"/> その他 ()	
4. 保育体験を通して	
(1) 「子育て支援」について考えるきっかけとなった	
① <input type="checkbox"/> 大変思う ② <input type="checkbox"/> 思う ③ <input type="checkbox"/> どちらともいえない ④ <input type="checkbox"/> 思わない	
(2) 子育てについて考えるきっかけとなった	
① <input type="checkbox"/> 大変思う ② <input type="checkbox"/> 思う ③ <input type="checkbox"/> どちらともいえない ④ <input type="checkbox"/> 思わない	
(3) 子育てをする親は大変だと思う	
① <input type="checkbox"/> 大変思う ② <input type="checkbox"/> 思う ③ <input type="checkbox"/> どちらともいえない ④ <input type="checkbox"/> 思わない	
①②にチェックした方。何が大変だと思いますか。	
[]
(4) 子育てはやりがいがある	
① <input type="checkbox"/> 大変思う ② <input type="checkbox"/> 思う ③ <input type="checkbox"/> どちらともいえない ④ <input type="checkbox"/> 思わない	
①②にチェックした方。何が「やりがい」だと思いますか。	
[]
(5) 乳幼児の保育は楽しい	
① <input type="checkbox"/> 大変思う ② <input type="checkbox"/> 思う ③ <input type="checkbox"/> どちらともいえない ④ <input type="checkbox"/> 思わない	
(6) 乳幼児の保育は大変だ	
① <input type="checkbox"/> 大変思う ② <input type="checkbox"/> 思う ③ <input type="checkbox"/> どちらともいえない ④ <input type="checkbox"/> 思わない	
(7) 乳幼児の保育はやりがいがある	
① <input type="checkbox"/> 大変思う ② <input type="checkbox"/> 思う ③ <input type="checkbox"/> どちらともいえない ④ <input type="checkbox"/> 思わない	
5. 「子育て支援講座」を受ける前と受けた後では、保育や子育てに対する認識は変わりましたか。	
(1) <input type="checkbox"/> はい (2) <input type="checkbox"/> いいえ	
「はい」と答えた方。それはどのようなことですか。	
[]
記入いただいた個人情報は、第三者に個人データを提供することはありません。	
アンケートのご協力、ありがとうございました。 滋賀短期大学 乳幼児総合研究所	

表1 アンケート調査

3.2 倫理的配慮

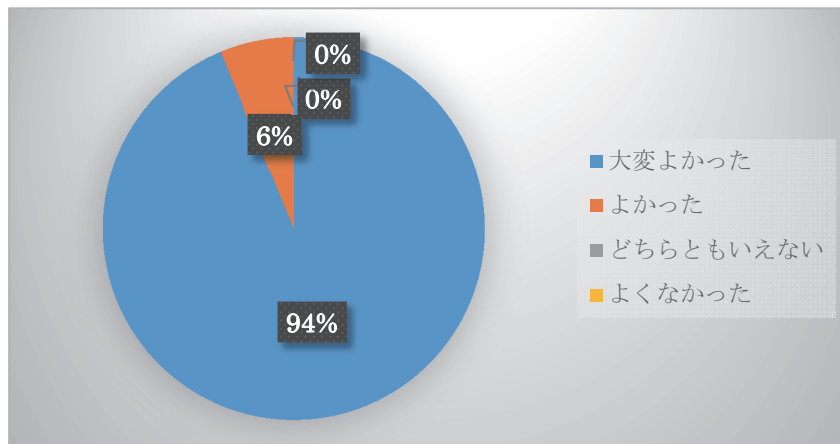
本研究に関して、参加した学生へ書面にて協力依頼を行い、同意を確認した。さらに個人情報の配慮については、個人が特定されないように記号による匿名化を行った。得られた情報は記号化し、分析はデータのみを使用した。なお、本研究は滋賀短期大学の研究倫理委員会の審査で承認を得た。

4. アンケートの調査結果と考察

4.1 アンケート調査結果

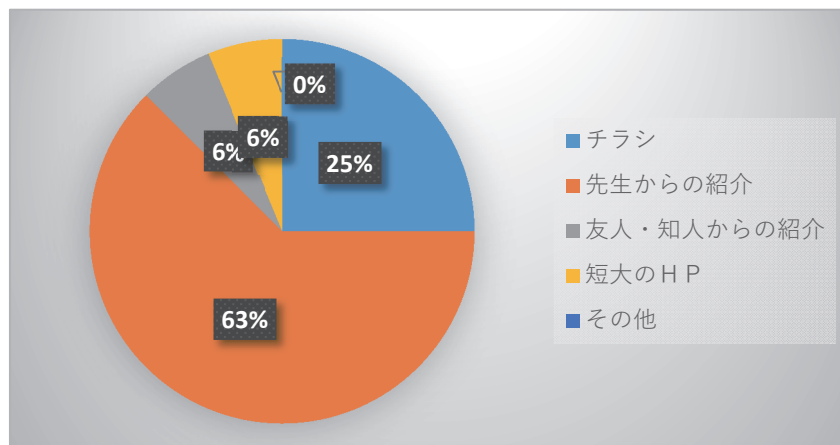
【選択記述】4段階評価（1 大変よかった 2 よかった 3 どちらともいえない 4 よくなかった）

図1 質問1 本日の講座内容（①子育て支援講座，②保育体験，③乳幼児とその保護者との交流）はどうでしたか。



質問2 選択記述なし

図2 質問3 本日の講座をどのようにして知ったか



短期大学における子育て支援の取り組み

図3 質問4-(1)保育体験を通して「子育て支援」について考えるきっかけとなった

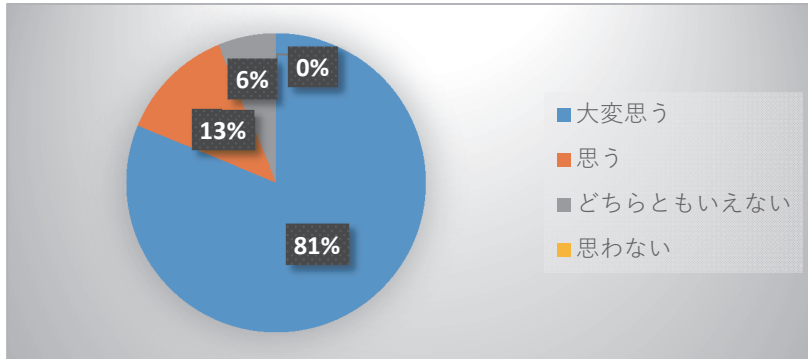


図4 質問4-(2)保育体験を通して一子育てについて考えるきっかけとなった

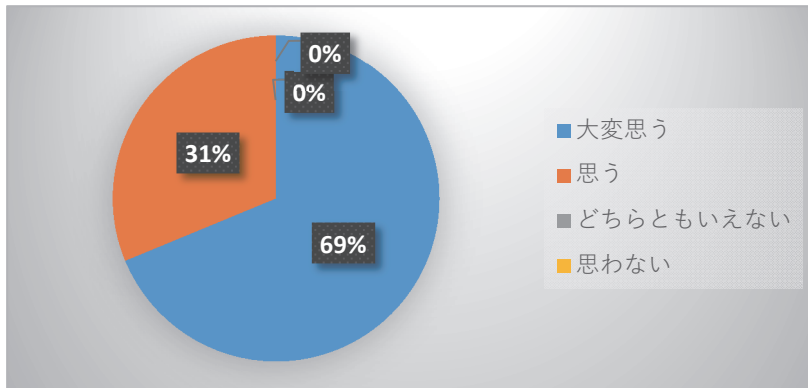


図5 質問4-(3)保育体験を通して一子育てをする親は大変だと思う

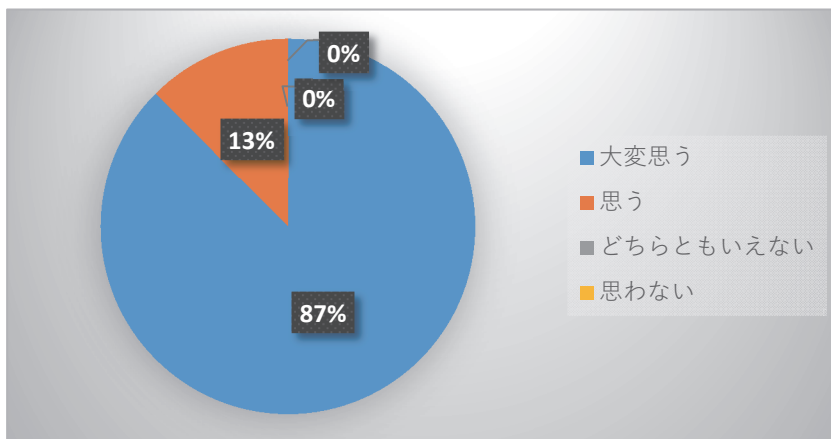


図6 質問4-(4)保育体験を通して一子育てはやりがいがある

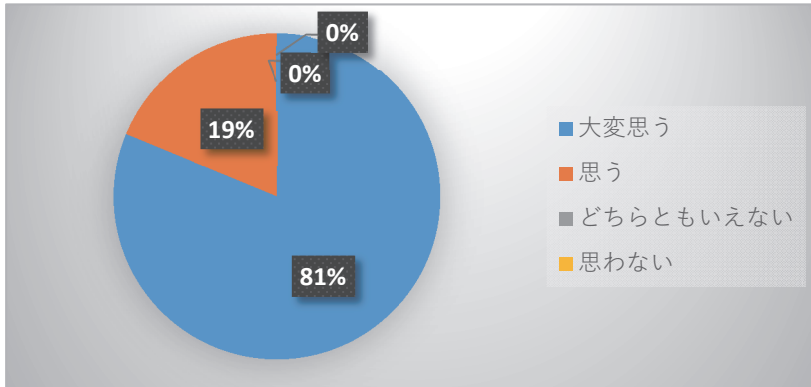


図7 質問4-(5)保育体験を通して一乳幼児の保育は楽しい

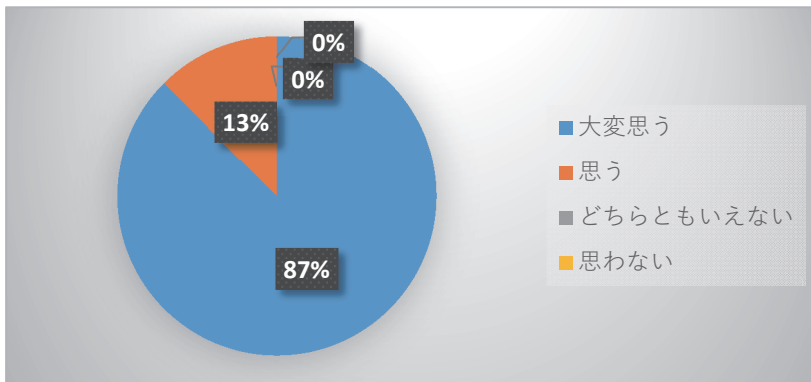


図8 質問4-(6)保育体験を通して一乳幼児の保育は大変だ

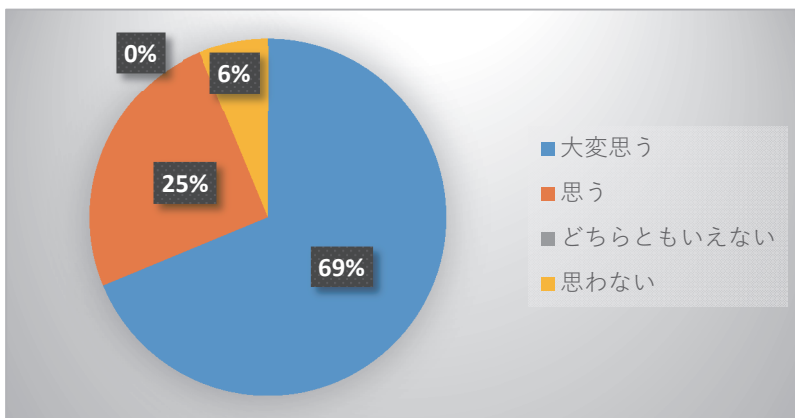


図9 質問4-(7)保育体験を通して一乳幼児の保育はやりがいがある

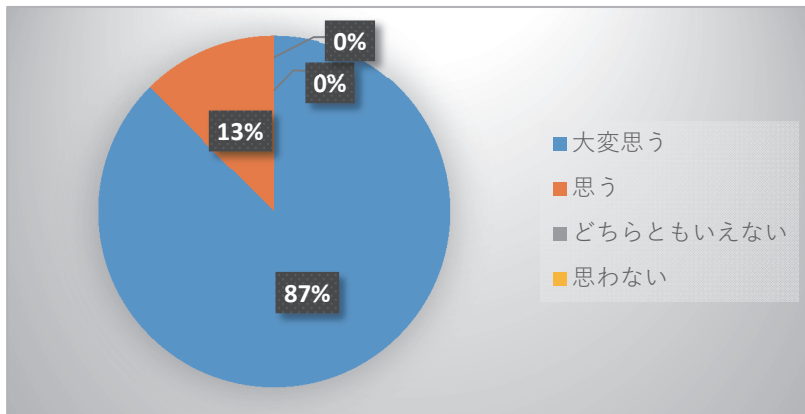
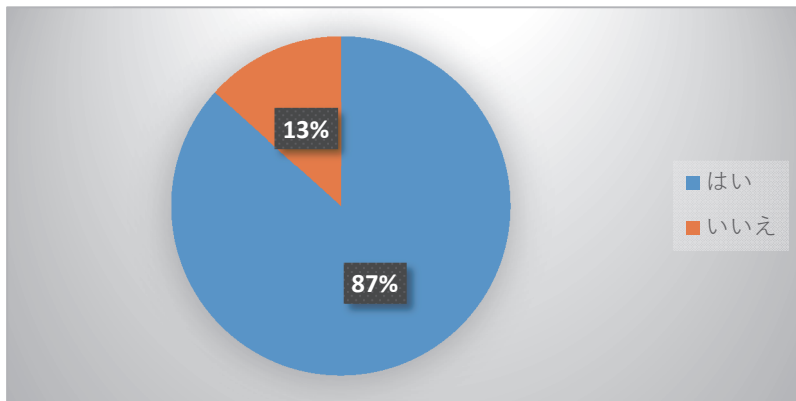


図10 質問5「子育て支援講座」を受ける前と受けた後では、保育や子育てに対する認識は変わりましたか



【自由記述】

質問1 講座全体の感想を書いてください。

講座内容の感想，特に興味をもった内容

- ・乳児との過ごし方で難しいと思うこともあったが，とても良い経験になった。
- ・子どもがベビーサインをしていて初めて意味など知って驚いた。
- ・生後4か月の赤ちゃんと1時間半もかかわる事が初めてだったので，とても良い経験と時間になった。
- ・保護者の方とのかかわりができ，良い経験になった。
- ・初めは泣いていた子も時間が経てば，楽しく遊べるようになり，遊び方が年齢によって全く違うと思った。

- ・子どもと1対1でかかわって、1人の子どもをよく観察して接することができた。
- ・一人ひとり違うので、その子に合った保育をすることが大切だと思った。
- ・楽しく保育できてよかった。
- ・1時間半の体験だったがとても疲れた。貴重な体験だった。
- ・愛着について。
- ・実習とはまた違った環境で初めて会う子どもたちとかわることができた。
- ・保護者が近くにいる時は自由に遊んでいたが、自分という自由で遊びに行こうとしなかったので不安を感じていると思った。不安を取り除くにはどうすれば良いか考えた。
- ・最初は泣いていたがすぐに泣き止んで、たくさん話してくれたので良かった。
- ・保護者に「保育士さんみたい」と言ってもらえて嬉しかった。
- ・子どもと一緒に遊ぶことは楽しいが、とても大変だと思った。
- ・普段できない体験ができたので良かった。
- ・泣くことなく楽しそうに遊んだり、途中で泣いてしまったりと、様々な姿をみることができた。

設問2 本講座に参加したきっかけを教えてください。

- ・誘われた為。
- ・紹介してもらった為。
- ・前回も参加して、また参加して学びたいと思った為。
- ・乳幼児とかかわりたい(保育実践ができる)、乳児について学べると思った為。
- ・保育士になるので、経験したかった。
- ・保育者になりたいと思った為。
- ・実習で活かせると思った為。
- ・実際にかかわる中で、様々なことを学びたかった為。
- ・子育て支援について興味をもったから。
- ・保育体験と保護者との交流に興味があったから。

設問4-(3) 保育体験を通して「子育て支援」「子育て」で何が大変だと思いますか。

- ・子どもは親の思うようにはいかないということ。
- ・子どもと2人の中で、相談する相手がいなかった場合、1人で抱えてしまうことがあること。
- ・話しても反応がないので泣いていても赤ちゃんがどう思っているのか感じているのかわからない、赤ちゃんの意思表示が伝わらないこと。
- ・対応の仕方や体力がもつかどうかということ。
- ・家事などをしながら子どものことを見ていないといけないこと。

- ・様々な悩みを抱えること。
- ・1時間半でこんなに疲れるのに、それを毎日されていること。
- ・何を考えているのか理解すること。
- ・自分の時間があまり作れないこと。
- ・何が起こるか分からないこと。
- ・毎日子どものことを考えないといけないこと。
- ・子どもの様子をうかがいながら遊ぶこと、あやすこと。
- ・いつも同じことをすれば良い訳ではないこと。
- ・子ども中心の生活になること。

設問4-(4) 何が子育ての「やりがい」だと思いますか。

- ・子どもの成長を見られる、感じられること。
- ・笑顔、喜んだ顔が見られること。
- ・子どもとの関係が築けるということ。
- ・伝えたいことが伝わる喜びがあること。

設問5 保育や子育てに対する認識で変わったことはどのようなことですか。

- ・子育て支援は、親と子どものために必要だと思った。
- ・安心感の輪をより一層大切にしようと思った。
- ・思ったよりも体力が必要だということ。
- ・日常生活の一部という考えでかかわること。
- ・子育てに悩む保護者にしっかりと寄り添わないといけないと思った。
- ・今までイメージしていたこととこれからイメージしていくことは違う。
- ・向き合って理解することの大切さを知った。
- ・相手（保護者）から喋ってくれると思っていたが、自分から喋らないといけないこと。
- ・子育ての中での愛着の大切さや繋がりを改めて学ぶことができ、保育の中でも大切にしたいと思った。
- ・保護者には保育について知りたい、不安に思っていることがたくさんあるということ。
- ・新しい考えと知識をもてた。
- ・子どもがただ可愛いだけではないということ。

4.2 調査結果の考察

本講座全般について、質問①で、94%の学生が「大変よかった」、6%が「よかった」と答えており、満足の内容であったと感じている。質問1の自由記述において、特によかったこととして、乳幼児との関わり、保護者との関わり、愛着についての知識を知れたこと、子どもの年齢によって、遊び方が全く違うこと等をあげていた。質問3の本日の講座をどのように知ったかでは、チラシ25%、先生からの紹介63%、友人・知人からの紹介6%、短大のHP6%であった。先生からの紹介が多いものの、自由記述の質問2では、「乳幼児と関わりたい」「保育士になるので経験したかった」「子育て支援に興味をもったから」等、積極性が見られた。質問4では、保育体験を通して、「子育て支援について考えるきっかけとなった」は、「大変思う」81%、「子育てについて考えるきっかけとなった」は「大変思う」が69%と過半数を占めた。また、「子育てをする親は大変をする親は大変だと思う」が87%と高い数値を示した。自由記述からも、保育体験を通して、子育ての身体的、精神的な大変さや子育て中の悩み等を養育者の視点になり記述している学生も多くみられた。質問5の「子育て支援講座を受ける前と受けた後では、保育や子育てに対する認識は変わりましたか?」では、「はい」と答えた学生が87%と割合が多く、自由記述の欄で「子育て支援は、親と子どものために必要だと思った」「子育てに悩む保護者にしっかりと寄り添わないといけないと思った」「保護者には保育について知りたい、不安に思っていることがたくさんあるということ」、「新しい考えと知識をもてた」等、子育てや子育て支援について子どもと保護者の両方について理解が必要であると気づいていた。

短時間の保育実践であったが、一人ひとりの子どもと向き合うことで、子育てについて立ち止まり、考えるきっかけになったと分析できる。

5. まとめ

保育を体験した学生たちは、母親と離れて不安や寂しさ、心配等を抱いている子どもたちに寄り添いながら、一人ひとりに丁寧に関わっていた。はじめのうちは、なかなかなじめなかった子どもたちも、少しずつ不安が解けていき、新しいあそびに手をのばせるようになったり、学生に体を預けて抱かれたり、おひざの上に乗る等あそびが広がっていった。親たちから、ねぎらいの言葉をかけてもらい、「保育士さんみたい」と言ってもらうことで嬉しいと感じている学生もいた。また、事業終了の翌日には、保護者の方から感想のメールをいただき、学生にとっては、大きな自信と励みになった。今回参加した学生は、ほとんどが幼児教育保育を学ぶ学生であったが、他学科の学生も数人見られた。幼児教育保育を学ぶ学生だけでなく、これを機会に学生たちが、子育ての現状を知り、子育て支援の必要性に気づき、自らのライフプランがデザインできるきっかけになればと考える。

今回、広く他大学にも参加をよびかけたが、本学の学生のみ参加となった。また、参加した学生は、1年次生、2年次生で、アンケートには、1年次生、2年次生を確認できる項目を設定していなかったため、1年次生と2年次生での学びの違いまでは言及できなかった。本学では、1年次の2、3月

に保育実習に初めて臨むため、1年次生と2年次生では、実習経験の有無によって、学びの深さも異なってくるのが推測される。今後は、この点についても考慮していきたい。

本研究において、学生の学びについて一定の評価ができる結果が得られた。今後、学生向けの子育て・子育て支援教育プログラムについてさらなる検討をしたい。

(表2) 講座参加の親から学生へのメッセージ

「(前略) 講座についての感想は、アンケートに記入したのですが、学生さんにお礼をしたくて、ご連絡しました。

娘の『M・2歳』は、Hさん、という学生さんが主についてくださっていました。講座が終了し、私が子供たちのいる部屋に戻り、学生さんと一緒に少し過ごしていると、子どもが黄色のボールを持って『ピカチュウ』と言えば、『そうだね、黄色はピカチュウの色だね』と反応してくださり、子どもが『ねこさんどこかなあ?』と言えば、『ねこさんのボールあったね。緑色のボールだったね』と反応してくれて一緒にボールを探してくれました。子ども自身が考えていることを言葉にして受け止めてくれて、ときにはおうむ返しで反応してくれる。そっと、必要な手助けをしてくれる。子どもにとって、Hお姉さんは安心して一緒にいられる存在だったと思います。保育士さんとしてきっと即戦力であり、子どもの立場に立って考えられる素敵な保育者になるんだろうなあ、このお姉さんのような保育士さんがいる保育園に通わせたいなあ。と、温かい気持ちになることができました。

子どもにとって、Hお姉さんは安心して一緒にいられる存在だったと思います。約1時間半は、大人にとっては短いようでも、きっと子どもにとっては長い時間です。その時間を、母親である私と離れても楽しく安心して過ごさせていただき、本当にありがとうございました。」

文献

1) 滋賀短期大学(2014)「乳幼児総合研究所 10年の歩み」 乳幼児総合研究所の2002年から2013年までの10年間の歩みを報告したものである。現在の乳幼児総合研究所の主な活動は、未就園児の参加親子、研究所職員と学生、ボランティアの協働で行っている。活動名は設立当初より「すみれがーでん」と称している。「すみれがーでん」は、毎年度ごとに会員登録をした地域の未就園児親子約50組が、月に2回(毎週木曜日10:00am.~正午頃)、乳幼児総合研究所のスタッフ、学生が考えたプログラムに参加する取り組みである。保育者を目指す幼児教育保育の学生にとって地域の未就園児親子と触れ合う機会は、保育実習の機会となると同時に、現在の子育て家庭の現状を知る手掛かりとなる。その他、すみれがーでん以外の隔週と毎週金曜日(10:00a.m~2:00p.m.)ノンプログラムの活動で、親子が集う場として提供している。

2) 本事業は、滋賀県(滋賀県健康医療 福祉部 子ども・青少年局 家庭福祉・青少年係)が「ライフデザイン講座」の県内大学等へ普及を促進するため2017度に構築した大学向けライフプランニングや幼児ふれあい体験のプログラムをはじめとするライフデザインセミナーを実施する「学生向けフューチャマップ創造支援事業費」の補助

金（学生向けライフデザイン講座等開催支援事業）の一部を受けて実施した。

3) 「子育ての文化研究所」<http://kosodate-bunka.jp/index.html> 代表 朱まり子 朱氏は、元幼稚園教諭、NPO 法人山科醍醐こどものひろばの理事長を務められた経験がある。現在は、地域の子ども対象の NPO 活動、子育て支援に専念されている。専門は児童文化学であり、大学、短期大学での非常勤講師の経験もあり、子育ての文化研究所が主催する事業として子育て支援者の研修、「15 のまなび」の企画・開催、講師を務める。日本に伝わる子育ての文化の良さを子育て中の親に伝え、今の社会に対応した子育て支援の情報発信、活動をしている。

4) <https://www.circleofsecurityinternational.com/>

親が別室で受けた講習は、「安心感の輪子育てプログラム」【COS-P プログラム (the Circle of Security Parenting Program)】である。映像や図表を盛り込んだ DVD 教材を活用する心理教育プログラムで、標準的には 8 週間で行う。今回は、1 回目の「安心感の輪」についての説明を中心に、親は、ファシリテーターと内省的な対話をおこなった。

5) 「保育ノート」は、A4 版の用紙を二つ折りにし、表紙には子どもの名前を記入した。内側は、親が書く欄と保育スタッフ（学生）が書く欄に分かれている。親が書く欄には、子どもの年齢（月齢）、好きな遊び、今日の様子（起床時間、排泄の有無、スタッフに伝えておきたいこと）を保育前に記入する。保育スタッフ（学生）が書く欄には、「スタッフから保護者へ」の欄には、保育中の子どもの様子を記入する。今回の事業のために作成した「保育ノート」は、講師の朱まり子氏が、NPO 法人山科醍醐こどものひろば子育て支援事業「げんきスポット 0-3」での保育事業の際、用いられた様式を参考にしている。